

平成22年度 行財政再生シート

NO. 6-3

項目名	民俗資料館	事業名	民俗資料館管理運営事業
担当部	教育委員会	担当課等	民俗資料館

この事業に係る費用を市民一人あたりに換算すると **561** 円 です。

※事業費（平成22年度予算額）を人口5万5千人で除した額

1. 事業の目的・概要等

(1) 事業の目的	郷土の考古・歴史・民俗が理解され、資料の収集・保管・調査研究および展示をする。			
(2) 事業の概要	展示ホールと常設展示室を利用した常設展示の場の提供と、特別展示室を利用した「企画展」と「我が家の歴史展」を合わせて年間7回開催し、平成21年度の来館者数は34,930人であった。			
(3) 実施・運営方法	○	1. 市が直接実施・運営		
		2. 外部へ委託または指定管理	委託先等	
		3. 団体等への補助金により実施	実施主体	
		4. その他（ ）		
(4) 実施期間など	開始年度	昭和56年度	終了予定年度	予定なし
(5) 根拠法令など	博物館法を準用、常滑市民俗資料館の設置及び管理に関する条例			
(6) 近隣市町・類似団体等の状況	知多5市2町に同趣旨の施設が設置されている。 半田市立博物館（事業費93,526千円）、知多市歴史民俗博物館（事業費60,459千円）、東海市立平州記念館・郷土資料館（事業費18,308千円）、大府市歴史民俗資料館（事業費39,671千円）、東浦町郷土資料館（事業費10,728千円）、武豊町歴史民俗資料館（事業費6,326千円）			

2. 事業費の推移

(千円)

-		H19決算額	H20決算額	H21決算額	H22予算額	
支出	事業費	6,774	7,276	7,395	7,751	
	人件費※	正規	3.0	3.0	3.0	3.0
		再任	24,000	23,400	20,700	20,700
		臨時	1.0		1.0	1.0
			2,900	0	2,600	2,400
	支出計	33,674	30,676	30,695	30,851	
財源	国・県支出金					
	地方債					
	その他（ ）	224	208	176	184	
	一般財源	33,450	30,468	30,519	30,667	
市民1人あたり(円)★	612	558	558	561		
投資事業費	全体事業費		~H22未見込	H23以降	進捗率	
	うち一般財源		うち一般財源	うち一般財源	(H22未見込)	

※人件費の算出単価 ・正規職員 : H19/8,000千円、H20/7,800千円、H21/6,900千円、H22/6,900千円
 ・再任用職員 : H19/2,900千円、H20/2,800千円、H21/2,600千円、H22/2,400千円
 ・臨時職員 : H19~H22/1,000千円

★支出計を人口55,000人で除した額

3. 事業実績・計画と成果等

	H19実績	H20実績	H21実績	H22計画
事業実績	企画展（6回開催） 第1回（建築陶器とその仲間） 実施日 H.19.5.26～7.1 来館者：3,611人 第2回我が家の歴史展（常滑焼の彫刻師・谷川白道展） 実施日 H.20.3.22～5.25 来館者：4,081人 全事業計 実施回数：7回 来館者計：31,127人	企画展（6回開催） 第1回（平安末期の常滑焼） 実施日 H.20.5.31～7.6 来館者：3,716人 第2回我が家の歴史展（谷川春陽とその仲間たち） 実施日 H.21.3.28～5.17 来館者：3,193人 全事業計 実施回数：7回 来館者計：31,125人	企画展（6回開催） 第1回（山茶碗とその仲間） 実施日 H.21.5.23～7.5 来館者：3,936人 第2回我が家の歴史展（常滑の山土で急須を） 実施日 H.22.3.27～5.16 来館者：4,986人 全事業計 実施回数：7回 来館者計：31,260人	企画展（6回開催） 第1回（中世常滑焼の世界） 実施日 H.22.5.22～7.4 来館者：3,216人 第2回我が家の歴史展（詳細未定） 実施予定日 H.23.3.26～5.15 来館予定者：4,100人 全事業計 実施予定回数：7回 来館予定者計：31,200人
成果・効果	ほとんど間をおかず企画展と我が家の歴史展を開催し、多くの来館者に観ていただいた。 日本6古窯（常滑・瀬戸・信楽・越前・丹波・備前）のひとつとしての常滑焼を展示し、市外 の来館者が多い。			

4. 事業の必要性

必要性	チェック数	法定等の実施義務がある	緊急度が高い	類似(代替)事業が存在しない
	4	実施目的が未達成である	政策・施策の中で優先度が高い	受益者が多く市民ニーズが高い
		市以外では実施不可能である	継続しなければ効果が表れない	市長の公約に掲げている
	廃止・凍結・休止・先送りした場合の影響	日本を代表する常滑焼の歴史の展示および学芸員の説明ができなくなり、焼き物の街としての魅力がなくなる。		
想定される代替事業	○	なし		
	市既存事業の活用	市（担当課）		
		既存の事業		
	民間事業の活用	想定事業主体		
代替事業				

5. 事業の自己評価(今後の方向性・課題など)

<p>本施設は市内外から年間3万人以上の方が来館される。 日本6古窯のひとつとして常滑焼を紹介する施設として、老朽化等の課題はあるものの、引き続き現状を維持していく必要があると考える。</p>
